

2010年3月期連結決算内容

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2235

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

2010年3月期通期連結業績

単位:億円 (未満切捨て)	第2四半期累計		第3・第4四半期 期間計		通期		
	実績	前年同期間 比増減	実績	前年同期間 比増減	実績	前年同期間 比増減	前回(E) 比増減
売上高	2,223	-205	2,158	-158	4,381	-364	-103
営業利益	75	-15	93	+32	168	+16	+17
経常利益	68	-18	86	+31	154	+12	+18
当期純利益	46	+7	43	+23	90	+30	+12
EPS(円)	15	+2	14	+8	29	+10	+4

注:(E)は2009年10月27日に発表したもの。

1.売上高

- ① 通期は前年比8%の減収。全般的に景気後退による消費の不振や価格下落の影響が継続している。加工食品は前年比7%減収、家庭用が前年を上回るが低価格化や外食の不振など業務用の減収が続いている。水産・畜産は採算面を重視し慎重な取扱いを徹底したことから水産12%、畜産16%の減収となった。低温物流は欧州事業の悪化の影響が大きく2%の減収。

2.営業利益

- ① 通期で前年比17億円の増益、前回予想に対しても17億円の上乗せとなった。
- ② 加工食品は原材料価格低下、チキン加工品の採算正常化と家庭用で実施したアイテムカットによる収益性の改善などが寄与し5億円増益。
- ③ 水産・畜産は採算面を重視した慎重な取扱いにより前年と比べると合わせて13億円の大幅増益。
- ④ 低温物流は前年比3億円の減益ながら地域保管が引続き前年を上回って底固く推移。

3.経常利益・当期純利益

- ① 減損損失の発生があったが、前期に発生していたリース会計基準導入にともなう影響額がなくなったことや事業譲渡益の発生により特別増益は前年比17億円の改善。

2010年3月期通期セグメント別売上高・営業利益

単位：億円（単位未満四捨五入、一部で端数調整あり）

	第2四半期(累計)			第3・第4四半期(期間計)			通期					
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		前回(E)比		
		増減	率		増減	率		増減	率	(E)	増減	
売上高	加工食品	853	-47	-5%	768	-72	-9%	1,621	-120	-7%	1,686	-65
	家庭用調理品	232	-5	-2%	232	7	3%	464	2	1%	463	1
	業務用調理品	408	-23	-5%	366	-72	-16%	774	-95	-11%	831	-57
	健康価値	49			30			79	-21	-21%	83	-4
	その他	165			139			304	-6	-2%	309	-5
	水産	337	-57	-15%	335	-31	-9%	672	-89	-12%	690	-18
	畜産	384	-86	-18%	393	-62	-14%	776	-149	-16%	809	-33
	低温物流	695	-28	-4%	696	-5	-1%	1,390	-33	-2%	1,395	-5
	物流ネットワーク	371	7	2%	382	24	7%	753	31	4%	746	7
	地域保管	232	-2	-1%	220	-8	-3%	452	-10	-2%	458	-6
	海外	84	-36	-30%	82	-23	-22%	165	-58	-26%	166	-1
	その他・共通	9	3	49%	12	1	9%	20	4	23%	25	-5
	不動産	35	-3	-7%	35	-1	-3%	70	-4	-5%	70	0
	その他	34	2	7%	35	1	2%	69	3	4%	68	1
全社または消去	-115	15	—	-102	12	—	-217	27	—	-233	16	
合計	2,223	-205	-8%	2,158	-159	-7%	4,381	-364	-8%	4,485	-104	
営業利益	加工食品	5	-5	-48%	20	10	101%	26	5	27%	17	9
	水産	4	-4	-55%	5	10	-209%	9	6	225%	7	2
	畜産	3	-4	-57%	4	11	-156%	7	7	-2353%	7	0
	低温物流	41	-3	-7%	38	0	-1%	79	-3	-4%	78	1
	物流ネットワーク	10	0	1%	10	1	15%	20	1	8%	22	-2
	地域保管	28	4	15%	25	0	-1%	53	3	7%	50	3
	海外	5	-6	-54%	2	-3	-61%	7	-9	-56%	9	-2
	その他・共通	-2	-1	—	1	2	—	-1	1	—	-3	2
	不動産	19	-2	-10%	19	-1	-6%	37	-3	-8%	36	1
	その他	2	1	105%	3	1	83%	4	2	91%	1	3
	全社または消去	3	2	—	4	1	—	7	3	—	5	2
合計	75	-16	-17%	93	32	53%	168	17	11%	151	17	

1.加工食品

- ①売上高は前年比7%減収。家庭用調理品は市場の内食拡大に加え米飯の増量セールが寄与し前年比1%増収。業務用調理品は11%の減収、外食はじめ業務用全般の客数減・低価格化の影響を大きく受けたほか、下期に発生したチキン加工品の一部OEM調達の打切りが想定以上の減収要因となった。一方で惣菜や外食ユーザーからの値ごろ感の要望にお応えしたコロッケの秋の新商品は導入が順調に進み、チキン以外の業務用商品では売上げ減少に歯止めがかかった。アセロラの製品売上高は自社での販売が11月末で終了した事もあり16億円の減収要因となった。
- ②営業利益は前年比5億円の増益。原材料コストの低下に加えて、家庭用でアイテムカットによる売上げ減を主力商品の拡販でカバーしプロダクトミックス改善効果が出たこと、業務用のチキン加工品がOEM調達打切りで採算が正常化してきたことなどが業務用の減収による影響を吸収した。営業費用など固定費の削減も寄与した。

2.水産

- ①売上高は前年比12%の減収、昨年よりさらに価格が低下する厳しい環境下、採算性を重視し取扱商材の選別を徹底した。この結果市況変動の影響を受けにくくなり採算性が安定したことと、得意分野のえびや、すしネタなど加工度の高い商材の取扱量が伸びていることから利益率が向上し営業利益は前年比6億円の増益。

3.畜産

- ①売上高は前年比16%の大幅な減収、全般的な価格の下落に加えて、輸入品の取扱いを慎重に行っていることがその要因。採算面では昨年大きく足を引っ張ったブラジル産鶏肉や輸入牛肉の採算が大幅に改善し、営業利益は7億円の増益。

4.低温物流

- ①全体では海外の減収の影響が大きく、売上高は前年比2%減収。営業利益は3億円減益、欧州事業の影響が大きい。ネットワークと地域保管は前年を上回って推移。
- ②物流ネットワーク:売上高は新センター稼働も寄与して前年比4%増収、営業利益は4Qの貨物取扱量増加により1億円増益。
- ③地域保管:売上高は在庫率低下の影響を受け2%減収となる。業界では在庫率が大きく低下する中で当社の低下は僅かなものに留まっており、貨物集荷力の差が顕著になっている。営業利益は貨物量減少を原価低減で吸収して3億円の増益。
- ④海外:売上高は26%減収、為替下落分が15%。欧州事業は運送や内陸部の冷蔵倉庫の貨物量減少の影響が大きい。営業利益は為替と減収の影響を受け9億円の減益。

5.その他

- ①バイオサイエンスで新型インフルエンザの流行による検査キットの販売増もあって2億円の増益。全社は共通経費の圧縮により3億円の増益。

2010年3月期通期連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

科目	10/3	09/3	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	948	1,165	-217	①
固定資産	1,826	1,707	+119	②
資産の部合計	2,774	2,872	-98	
〔負債・資本の部〕				
流動負債	895	1,115	-220	③
固定負債	652	625	+27	
負債の部合計	1,548	1,740	-192	
純資産の部	1,226	1,131	+94	
(うち株主資本)	1,159	1,097	+62	
有利子負債	857	1,104	-247	③
(うちリース債務除く)	609	879	-269	
科目	10/3	09/3	増減	
設備投資額	236	139	+ 96	④
(うちリース資産除く)	172	119	+ 53	
減価償却費	135	137	-2	
(うちリース資産除く)	97	100	-3	

【主な要因】

- ① 前期中に前倒して調達した資金を長期借入金などの返済に充当した結果、現預金が132億円減少。売上高の減少により売上債権43億円、たな卸資産45億円減少。
- ② 低温物流を中心とした設備投資に伴い有形固定資産が98億円増加。
- ③ 社債・長期借入金の償還・返済を359億円実施、短期借入金・商業ペーパーの増で返済資金の一部を賄い、有利子負債は247億円の減少に。
- ④ 設備投資の主なもの
(低温物流)
北港DC、福岡東浜DC、キョクレイ山下DC、東扇島DC、フリゴロジスティクスポーランドラドムスコセンター
(加工食品)
ベジポート(青果物流通センター)

2010年3月期通期 営業外収支・特別損益の変動要因

単位:億円(未満切り捨て) プラス表示は利益を示す		通 期				
		10/3	09/3	(E)	前年同期間 比増減	前回(E) 比増減
【営業外収支】		-13	-9	-15	-3	+1
(主要項目)						
金融収支		-11	-12	-14	+0	+2
その他営業外収 益		-1	+0	-2	-2	+0
【特別損益】		-10	-28	-7	+17	-3
(主要項目)						
固定資産売却益		+2	+6	+3	-3	-0
事業譲渡益	①	+8	-	+8	+8	-
減損損失	②	-7	-0	-1	-7	-6
リース会計基準の 導入に伴う影響額	③	-	-17	-	+17	-

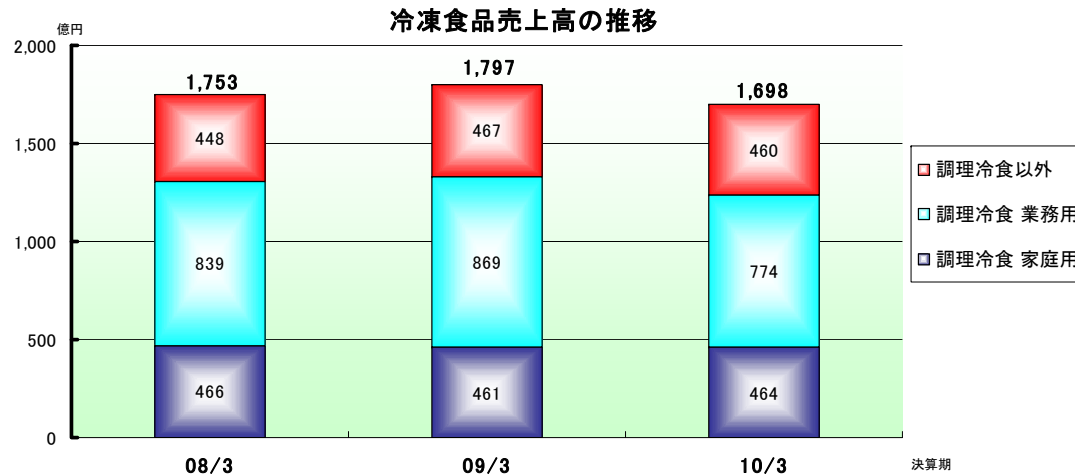
注:(E)は2009年10月27日に発表したもの。

- ① アセロラ飲料事業の売却によるもの
- ② 加工食品の海外拠点の営業権や固定資産など
- ③ 前期に発生していたリース会計基準の導入にともなう影響額がなくなったため

参考データ

冷凍食品売上高の推移

(日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)

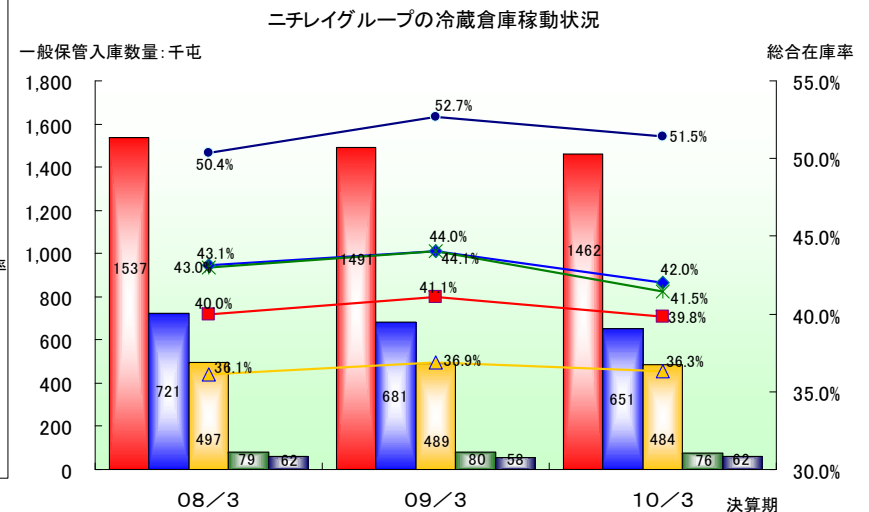
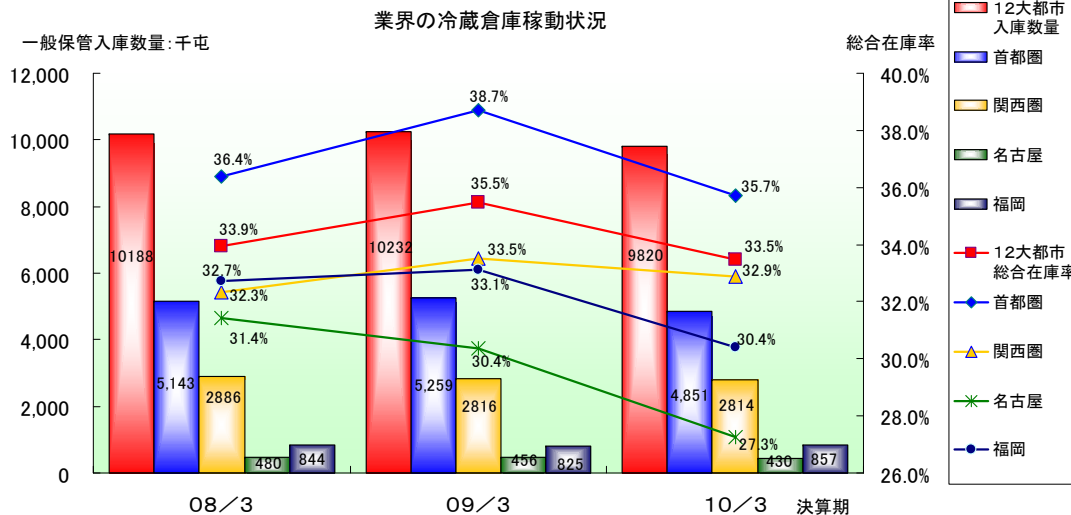


冷蔵倉庫業界収容容積国内シェア

(2010年1月1日現在)

社名・グループ名	拠点数	能力 万ト	08/4比 増減	能力 シェア	主たる営業地域
ニチレイグループ	85	132	-1	11%	全国
横浜冷凍	42	70	0	6%	全国
マルハニチログループ	36	58	1	5%	全国
東洋水産 グループ	17	35	2	3%	全国
日本水産 グループ	16	33	1	3%	全国
五十嵐冷蔵	9	21	0	2%	関東
ヒューテックノオリン	13	21	8	2%	全国
松岡	6	16	0	1%	関東、関西、中国
鴻池運輸	13	15	2	1%	全国
キューソー流通システム	23	14	0	1%	全国
宝船冷蔵	4	14	2	1%	関西
二葉	5	12	2	1%	関東
兵食	7	11	0	1%	関西
ハウスイ	7	10	0	1%	関東
山手冷蔵	5	10	0	1%	関東、中部
港湾冷蔵	6	9	0	1%	関東、関西、九州
川西倉庫	7	8	0	1%	関東、関西
東京豊海冷蔵	3	7	0	1%	関東
その他	1,323	657	-1	57%	
合計	1,627	1,152	17	100%	

冷蔵倉庫の稼働状況 (業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)



* 08/3期より12大都市に追加された札幌石狩地区、名古屋尾北地区は時系列比較の為対象に含めていない

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。